

# 北海道デジタル人材育成推進協議会

## ～2023年度取組報告・2024年度事業方針案～

### (事務局資料)

**2024年3月11日**

(本資料のお問い合わせ先)

経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課  
課長 佐々木 信之 (担当：高橋、天内、矢野)

電話：011-709-2311 (内線2566)

E-mail：[bzl-hokkaido-seizojoho@meti.go.jp](mailto:bzl-hokkaido-seizojoho@meti.go.jp)

# 北海道デジタル人材育成推進協議会の概要

- 北海道経済産業局は、産業界、教育機関、行政機関等で構成する「**北海道デジタル人材育成推進協議会**」を2023年3月に設置（**地域ブロックでは全国唯一**）。  
\* 本会議（第1回：2023年3月14日、第2回：2024年3月11日）、ワーキンググループ（WG）会議（第1回：2023年7月28日、第2回：同年12月13日）
- 本協議会では、デジタル田園都市国家構想で掲げる、2026年度末までにデジタル人材230万人育成に寄与するために、**北海道から優秀なデジタル人材を数多く輩出するとともに、今後の道内デジタル産業の発展のためにこれら人材の地元就職も強化**。
- 具体的な取組については、第1回本会議で出された論点に基づき仮説を立て、WG会議において教育界と産業界が目線を合わせて協議・検討したうえで、下記のとおり決定し事業を推進。

主な取組	<b>1. デジタル人材のターゲティングとカリキュラムの検討【取組1】</b>	
	「産業界が求める人材」と「教育界が育てる人材」のマッチング及び本協議会で扱うデジタル人材像の設定	
	双方人材像・ニーズの適合性の確認・可視化・調整	
	<b>2. デジタル人材育成機能の強化【取組2】</b>	<b>3. 道内企業への就職促進【取組3】</b>
	(1) カリキュラムの強化 ①「既存PBLケースバンク」の設置、大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチング ②大学等におけるデジタル関連の教育プログラムの強化 など (2) 大学等への実務家教員派遣の仕組みの構築 ①実務家教員派遣希望に対する企業マッチングの実施 ②実務家教員による講義の動画コンテンツの制作 など (3) 道内企業（社会人）のリカレント教育の推進 ・リカレント教育・既存人材育成メニューの情報発信 など	(1) 道内学生と企業との接点拡大の取組 ・「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージの実施 ①教員向け合同企業説明会「教員×企業」 ②実践的インターンシップ「学生×仕事」 ③焚火トーク「学生×経営者」 ・北海道大学実施のプログラムとの連携 など (2) 道内情報系学生の就職先動向調査で把握したデータをもとに道内人材確保策を検討
<b>4. 参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用【取組4】</b>		

# 北海道デジタル人材育成推進協議会：参画機関一覧（順不同）

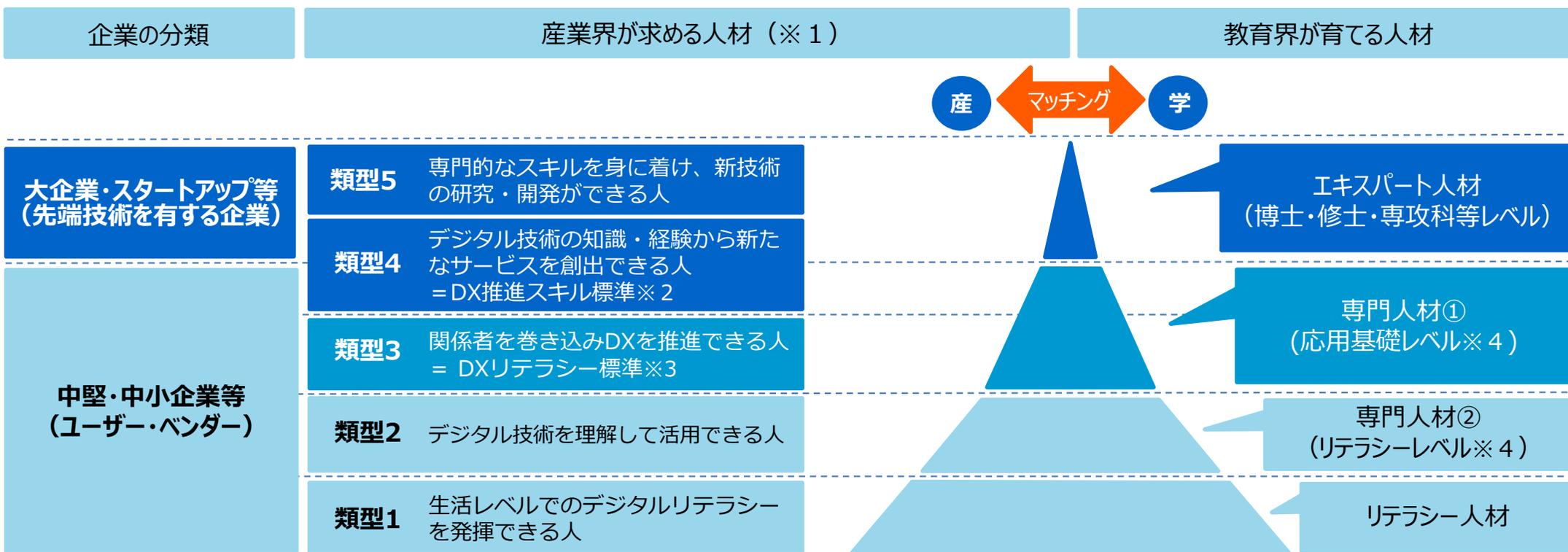
※2024年3月11日現在

教育機関	1	国立大学法人北海道大学	教育機関	15	函館工業高等専門学校
	2	国立大学法人室蘭工業大学		16	苫小牧工業高等専門学校
	3	国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学		17	釧路工業高等専門学校
	4	国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学		18	旭川工業高等専門学校
	5	国立大学法人旭川医科大学	産業界	19	北海道経済連合会
	6	国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学		20	一般社団法人北海道商工会議所連合会
	7	公立はこだて未来大学		21	一般社団法人北海道IT推進協会
	8	公立千歳科学技術大学		22	一般社団法人北海道機械工業会
	9	札幌市立大学		23	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
	10	札幌大学	行政機関	24	北海道
	11	札幌学院大学		25	札幌市
	12	北海学園大学		26	文部科学省（高等教育局 専門教育課）
	13	北海道科学大学		27	経済産業省（商務情報政策局 情報技術利用促進課）
	14	北海道情報大学	事務局	経済産業省北海道経済産業局（地域経済部 製造・情報産業課）	

# 2023年度取組報告

# 1 「産業界が求める人材」と「教育界が育てる人材」のマッチング及び本協議会で扱うデジタル人材像の設定

- 産業界・教育界におけるそれぞれのデジタル人材のイメージ（人材像、スキル等）、及び本協議会で主にターゲットとする人材像について、**双方で大きな相違はなく、概ね一致**（以下図参照）。
- 本協議会では、**道内でボリュームの多い中堅・中小企業等（ユーザー・ベンダー）**を中心としつつ、ターゲットとする各人材類型※<sup>1</sup>（類型2～類型5）に対応した育成等に向けたアクションを検討し、進めていくことを決定。



（※1）産業界が求める人材類型：「北海道Society5.0推進会議 デジタル人材育成・確保ワーキンググループ」（北海道庁）資料をベースに事務局にて加筆したもの。

（※2）DX推進スキル標準：ビジネスアーキテクトやデータサイエンティスト、ソフトウェアエンジニアなどDXを推進する人材タイプの役割や習得すべきスキル。

（※3）DXリテラシー標準：DXに関する基礎的な知識・スキル。

（※4）「応用基礎レベル」「リテラシーレベル」：数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の分類。下記は本協議会参画機関の認定状況（2024年3月11日現在）。

・応用基礎レベル認定校：北海道大学、北見工業大学、はこだて未来大学、千歳科学技術大学、北海道科学大学、苫小牧高専、旭川高専

・リテラシーレベル認定校：（上記7校に加え）室蘭工業大学、小樽商科大学、札幌大学、北海道情報大学、函館高専、釧路高専

## 2 デジタル人材育成機能の強化

### (1) ①「既存PBLケースバンク」の設置、及び大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチング

- 産業界は、デジタル人材のスキル等として「ビジネスの素養」をより重視。一方で、ビジネス知識・スキル習得を主とした講義は少なく、あったとしても選択科目。今後の教育界での育成の方向性として、企業の実データ分析等を取り入れたPBL（課題解決型学習）を講義に導入する等の取組が有効。
- 本協議会に参画する大学・高専における既存PBLの情報を収集・整理し、「既存PBLケースバンク」を設置。2024年度にWEB公開予定（協議会参画機関への限定公開）。
- また、「大学・高専の新規PBL実施ニーズ調査」を実施。併せて、PBLを通して経営課題等を解決したいと考える道内企業を募集し、北海道大学とマッチング。

#### (ア) 「既存PBLケースバンク」の設置

- ◆ 大学・高専での新規PBLの開発促進や既存PBLの内容更新を目的として、道内大学・高専の「既存PBLケースバンク」を、北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター（以下、北海道大学MDSC）のホームページ内（協議会参画機関への限定公開を予定）に設置
- ◆ 元となる既存PBLの情報については、大学・高専に対して調査を実施（現在7校分を把握済）
- ◆ 「既存PBLケースバンク」のイメージは <資料2-1> 参照

#### (イ) 大学・高専の新規PBL実施ニーズと企業課題等のマッチング「課題解決プロジェクト」

学校名	北海道大学MDSC
実課題提供企業	・ 日本電気（株）北海道支社（札幌市）及びデジタル・ガバメント推進統括部（東京都） ・ 萩原建設工業（株）（帯広市）
開講時期	2024年5月～7月（予定）
対象	修士課程1～2年次、学部3～4年次
開講方法	・ 単位外でのモデル講義 ・ 週1回2コマを4回程度実施予定
進捗状況	課題・データ等の整理及び教材化

- ◆ 上記モデル実施を踏まえ確立した講義内容を、他の大学・高専への横展開を実施（現在2校よりニーズを把握。各校の準備が整い次第実施）

## <資料2-1> 「既存PBLケースバンク」のイメージ

学校名	苫小牧工業高等専門学校
講義名	創造工学 I
対象者	本科1年全学生
受講人数	約200人
開講時期	2023年度 後期
担当教員	創造工学科総合自然科学系・教授・村本 創造工学科情報科学・工学系・助教・杉本
<b>講義全体概要</b>	
①講義の到達目標及びテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する課題に取り組むことができる。
②全体カリキュラム（情報、数理・データサイエンス）における本講義の位置づけ	リテラシーレベルの「4-3. データ構造とプログラミング基礎」に対応
③講義形式	実験・実習
④キーワード	

PBLの講義内容について	
①PBL開講コマ数	60コマ中6コマ
②PBL講義内容	1) 製品（組込システム）をイメージして、micro:bitを使ったプログラミング演習を行うとともに、開発した製品の売上計画や利益について考える。 2) プログラミングでドローンを制御し、指定されたデータを取得する課題解決にグループで取り組む。
③ビジネス素養育成	あり
④ビジネス素養育成の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が欲しいと思う製品を設計する（デザイン思考）</li> <li>与えられた条件で設計する（課題解決力）</li> <li>開発した製品を相互に発表し合う（コミュニケーション力）</li> </ul>
⑤民間企業の実課題や実データ等の活用	なし
⑥秘密保持契約	—
⑦実務家教員の活用	なし
⑧実務家教員による講義の形式	—
⑨報酬・旅費	
⑩報酬・旅費支給に係る規定	

## 2 (1) ② 大学等におけるデジタル関連の教育プログラムの強化

- 「大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」の初回公募に対し、本協議会に参画する道内大学・高専の中では、北海道大学・室蘭工業大学・北海道科学大学の3校が選定（2023年7月21日文部科学省公表）。
- 各大学等は、デジタル関連の教育プログラムの強化に向けて、本事業の活用のほか独自の取組も展開。

### 【1. 「大学・高専機能強化支援事業」の選定概要（本協議会に参画する3大学分）】

	北海道大学	室蘭工業大学	北海道科学大学
支援枠	高度情報専門人材の確保に向けた機能強化 (対象：国公立大学・高専)		学部再編等による特定成長分野 への転換等 (対象：公立大学)
計画概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学院情報科学院の定員増               <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士後期課程：43人→48人（2030年度）</li> <li>・修士課程：196人→229人（2028年度）</li> </ul> </li> <li>○工学部情報エレクトロニクス学科の定員増               <ul style="list-style-type: none"> <li>・180人→230人（2024年度）</li> </ul>               【「ハイレベル枠」選定案件】             </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報電子工学系専攻に「共創情報学コース」新設               <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程（定員15人）（2024年度）</li> </ul>               【「一般枠」選定案件】             </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工学部情報工学科を「情報科学部」に格上げ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員も増（90人→100人）（2025年度）</li> </ul> </li> </ul>

### 【2. 個別大学等の独自の取組（以下、北海道科学大学の例）】

データサイエンスやAIの基礎知識を1年生から学ぶことのできる全学共通必修科目群「HUSスタンダード」を2024年4月にスタートさせる予定。

（出所：各大学へのヒアリングをもとに北海道経済産業局作成）

## 2 (2) ① 実務家教員派遣希望に対する企業マッチングの実施

- 北見工業大学から2024年度開講の4講義で、北海道大学からも2024年度開講の1講義で実務家教員（非常勤講師）の活用希望あり。
- 大学側の派遣ニーズをまとめるフォーマットと、企業側の講師派遣希望を取りまとめるフォーマットを用い、個別面談を行いマッチング。北見工業大学では3講義、北海道大学では1講義において、候補企業を選定（今後、学内プロセスを経て正式決定）。
- 今後は、これらをモデルに他校へ横展開。事務局の調査において、現在、本協議会に参画する大学・高専の中で「派遣希望」（1校）・「派遣を検討中」（4校）の実務家教員派遣ニーズを把握。

### (ア) 北見工業大学及び北海道大学（モデル事例）

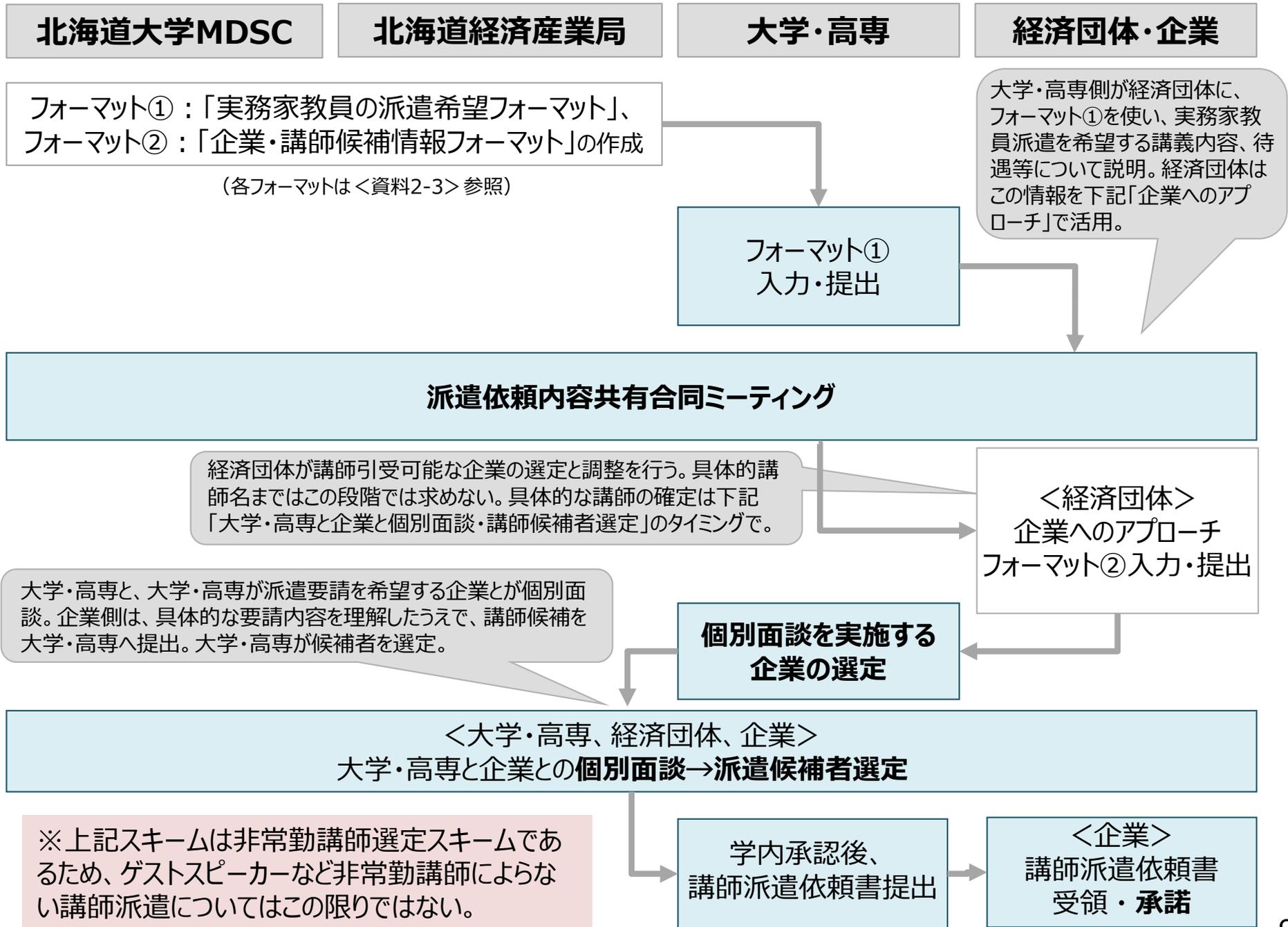
学校名	講義名	開講時期	対象	実務家教員派遣候補企業名
北見工業大学	情報セキュリティ基礎	2024年度 前期	学部2年次	北海道ガス（株）（札幌市）
	情報セキュリティ特論	2024年度 前期	博士前期課程1年次	（株）澄川工作所（北広島市）
	ソフトウェア工学	2024年度 後期	学部3年次	（株）インセンブル（札幌市）
	PythonプログラミングⅡ	2024年度 前期	学部3年次	（2025年度実施に向け継続協議）
北海道大学	データ活用入門A	2024年度 前期	学部2～4年次	日本電気（株）北海道支社（札幌市）

※今後、学内プロセスを経て正式決定

### (イ) モデル事例の他の大学・高専への横展開

- ◆ 上記モデル実施を踏まえ確立したスキームを活用し、他の大学・高専への横展開を実施
- ◆ 事務局は大学・高専に対して、2024年度開講予定の実務家教員派遣希望調査を実施（現在「派遣希望」1校・「派遣を検討中」4校を把握済）
- ◆ 2024年度以降の開講に向けた実務家教員派遣（非常勤講師）選定スキームは〈資料2-2〉参照

# <資料 2 - 2> 2024年度以降の開講に向けた実務家教員派遣（非常勤講師）選定スキーム



10月～3月

# <資料 2-3>【大学・高専入力用】実務家教員の派遣希望フォーマット

実務家教員の派遣希望フォーマット **大学・高専入力用**

北海道デジタル人材育成推進協議会 宛

\_\_年\_\_月\_\_日

1. 学校名	
2. 講義名	
3. 対象	
4. 開講時期	年度 前期・後期 ( __月～__月 )
5. 担当教員	
6. 講義内容	※シラバスをベースにご記入ください。 ※該当するシラバスのページを PDF データで添付してください。
① 講義の到達目標及びテーマ	
② 全体カリキュラム (情報・数理・データサイエンス) における本講義の位置づけ	
③ 講義形式	
④ キーワード	
7. 実務家教員への依頼事項	
① 実務家教員に依頼する理由・期待	※具体的にご記入ください。
依頼講義コマ数	※講義全体に占める実務家教員派遣講義の割合を確認するための質問です。下記で「コマ」と単位を入力していますが、日数や時間数など、必要に応じて単位を置き換えてください。 15 コマ中                      コマ
② 講義日時・内容	※複数日ある場合はすべてご記入ください。 ※行が不足する場合は適宜追加してください。 ①                      年                      月                      日                      時から                      時                      分まで <内容> ※本講義全体におけるこのコマの位置づけについてもご記入ください。

	②                      年                      月                      日                      時から                      時                      分まで <内容> ※本講義全体におけるこのコマの位置づけについてもご記入ください。
③ 教員の複数人での対応	※1コマを複数人で対応することの可否 可 ・ 不可
④ オンラインでの対応	※オンラインでの講義実施の可否 可 ・ 不可
⑤ 講義日確定後に都合が悪くなった場合の対応	※休校、講義の変更、代役などの可能な対応方法をご記入ください。 ※上記対応ができない場合は「不可」とご記入ください。
⑥ 講義で使用する機材・ソフト	※講義で使用できる、または使用しなければならない機材等をご記入ください。
⑦ 実務経歴、保有資格、指導経験等	※特に求める資格等がなければ空欄で結構です。 ※行が不足する場合は適宜追加してください。 ① ②
⑧ 事前打ち合わせの有無	有 (回数: __回程度) ・ 無
⑨ その他特記事項	
8. 待遇	※詳細にご記入ください。
① 身分	
② 報酬	
③ 旅費・交通費・日当	
④ その他	

ご記入ありがとうございました。

# ＜資料 2 - 3＞【企業入力用】企業・講師候補情報フォーマット

企業・講師候補情報フォーマット

企業入力用

北海道デジタル人材育成推進協議会 宛

\_\_年\_\_月\_\_日

※○印を入力ください。

<input type="checkbox"/>	北海道経済連合会
<input type="checkbox"/>	北海道商工会議所連合会
<input type="checkbox"/>	北海道 IT 推進協会
<input type="checkbox"/>	北海道機械工業会

(1) 講義名

(2) 企業情報

企業名	
事業内容	
実務家教員派遣担当部署名	
実務家教員派遣担当者 役職・氏名	
連絡先	
電話番号	
e-mail	
ホームページ URL	

(3) 実務家教員候補者情報

ア. 候補者①

所属部署名	
役職・氏名	
出張出発地住所	〒
謝金受取	<input type="checkbox"/> 受け取ります <input type="checkbox"/> 辞退します
実務経験歴、保有資格、指導経験等(※任意)	

イ. 候補者②

所属部署名	
役職・氏名	
出張出発地住所	〒
謝金受取	<input type="checkbox"/> 受け取ります <input type="checkbox"/> 辞退します
実務経験歴、保有資格、指導経験等(※任意)	

※候補者入力表が不足する場合は、表を追加入力してください。

## 2 (2) ② 実務家教員による講義の動画コンテンツの制作

- 実務家教員派遣の一環として、北海道大学より、(ア) サイバーセキュリティ・コンプライアンスの分野や(イ) データサイエンスの実社会における活用事例について、オンデマンドで活用できる実務家教員による講義の動画コンテンツ制作の希望あり。
- そこで、北海道大学と企業のマッチングを実施し、上記(ア)については実務家教員派遣企業を選定、動画コンテンツを制作中。上記(イ)については派遣企業選定の段階にあり、現在協議中。
- 本コンテンツは、北海道大学に限らず、本協議会に参画する大学・高専との共有を検討。

分野	(ア) サイバーセキュリティ・コンプライアンス	(イ) データサイエンス活用事例
学校名	北海道大学	北海道大学
講義名	「情報学Ⅰ」	「情報学Ⅱ」
開講時期	2024年度前期	2024年度後期
対象	学部1年次～	学部1年次～
制作コンテンツの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1本あたり5分程度のコンテンツを6本制作               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 身近な事件や事故などからリスクを認識する</li> <li>② サイバーセキュリティ最前線</li> <li>③ 各自のデバイスやアカウント管理について</li> <li>④ インターネット上での個人情報の取り扱い、SNSを使う上での注意点</li> <li>⑤ インターネット上で使用される最近の技術にて注意すべき点</li> <li>⑥ インターネットを取り巻く法令やコンプライアンス</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業が取り組む、データサイエンスの経営への活用事例を紹介する内容</li> <li>● 1社あたり30分程度のコンテンツを1本制作</li> <li>● 2024年9月までに完成</li> </ul>
実務家教員派遣企業	(株) 澄川工作所 (北広島市)	協議中
進捗状況	動画コンテンツ編集中	実務家教員派遣企業選定に向け協議中
備考	上記「情報学Ⅰ」「情報学Ⅱ」での活用に加え、北海道大学MDSCのホームページに掲載するなど協議会参画大学・高専との共有を検討	

## 2 (3) 教育界のリカレント教育の概要、既存人材育成メニューの把握と情報発信等

- 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの「リテラシーレベル」を履修した学生が、今後、数多くビジネスの現場に輩出されることが予想される中、企業側の既存社員のデジタルリテラシー向上等は欠かせない状況。
- 事務局ヒアリングでは、大学・高専におけるデジタル分野でのリカレント教育のコンテンツは少ない。一方、民間の人材育成メニューは比較的充実している状況。しかし、産業界はデジタル人材の育成の重要性を認識しているものの、多忙などを理由に、受講の動きは鈍い。
- そこで、北海道大学が「デジタルリスキリングプログラム」を開発して、協議会に参画する経済団体経由で道内企業への活用を推進。今後民間企業が提供する人材育成メニューや、経済産業省が提供するポータルサイト「マナビDX」などの活用を促す方法を検討していく。

### 北海道大学におけるデジタルリスキリングプログラム

- ◆ 北海道大学において採択された「令和4年度 成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」採択プログラムの2事業について、情報発信を実施
- ◆ 2024年度に北海道大学が実施する「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）におけるデジタルリスキリングプログラム」との連携など、今後のリカレント教育の推進に向けた取組を検討

### マナビDX

The screenshot displays the ManabiDX website interface. At the top, there is a navigation bar with links for '講座一覧' (Course List), 'マナビDXとは' (What is ManabiDX), 'マナビDXでの学び方' (How to learn on ManabiDX), and '講座提供希望の事業者の方へ' (For providers of courses). Below the navigation bar is a search bar with the text '何を学びたいですか?' (What do you want to learn?) and a search icon. The main content area features a large heading 'マナビDXはすべての人に学びの場を提供します' (ManabiDX provides a learning environment for everyone) with three highlighted benefits: 'かんたん' (Easy), 'あんしん' (Secure), and 'うれしい' (Happy). To the right of these benefits are three bullet points: '登録不要' (No registration required), 'ログイン不要' (No login required), and '政府運用サイト' (Government-operated site). Below this is a section titled '学習コンテンツ' (Learning Content) with a grid of categories: 'ビジネスアーキテクト' (Business Architect), 'デザイナー' (Designer), 'データサイエンティスト' (Data Scientist), 'ソフトウェアエンジニア' (Software Engineer), 'サイバーセキュリティ' (Cybersecurity), 'Reスキル講座' (Reskill Course), 'DXリテラシー' (DX Literacy), and 'etc...'. The 'Reスキル講座' category includes a logo for 'Reスキル講座'.

### 3 道内企業への就職促進

#### (1) 道内学生と企業との接点拡大の取組

- 道内で地元進学した学生（道内高校卒業→道内大学入学）が、道内就職を希望する割合は、85%（全国平均74%）※と非常に高い。しかし、道内企業をあまり知らない、道外企業の方が条件が良いなどを理由に、大学生・高専生が道外へ流出している。
- 道内企業の認知度向上を目的とした企業・経営者・教員・学生との接点づくりを実施。特に、企業と教員の接点づくり（企業と学生との間接的なつながり）については、産業界及び教育界の双方から強いニーズあり。
- 具体的には、産業界と教育界が連携し、教員向け合同企業説明会、実践的インターンシップ、焚火トークをパッケージ化し相乗効果を狙う。2023年度から2024年度にかけてモデル実施。

#### 「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」 ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージ

2023年度から2024年度にかけて各取組をモデル実施

##### (1) 教員向け合同企業説明会「教員×企業」

- 学生の就職相談の役割も担う教員や就職担当職員を対象とした道内企業の合同企業説明会を開催し、教員等と企業とをつなげることで、学生と企業との間接的接点をつくることを目的に実施

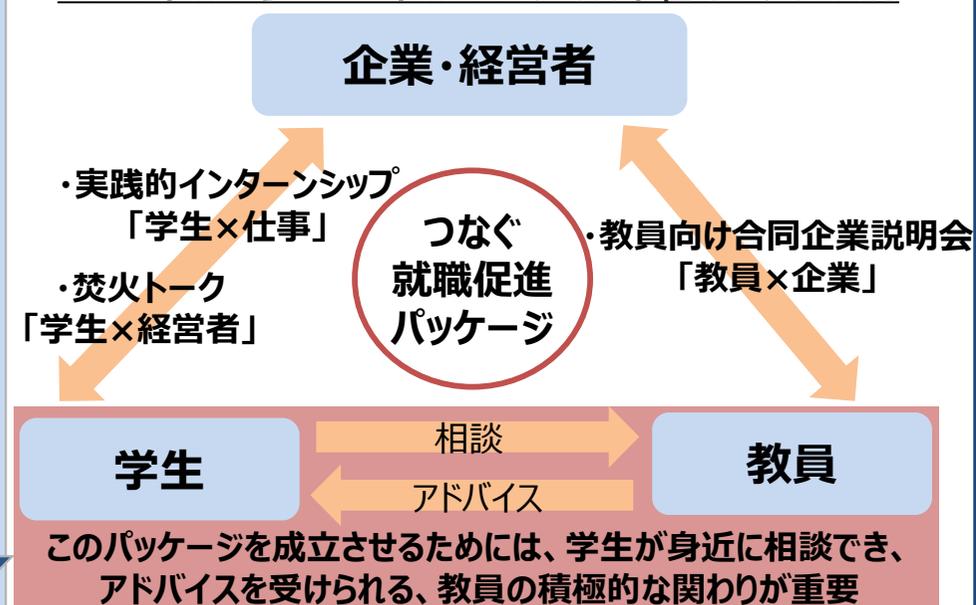
##### (2) 実践的インターンシップ「学生×仕事」

- 学生が、中長期間（例：3ヶ月/週3・1日数時間など）・有給等にて、道内企業の実際の仕事や仮課題・実課題等に取り組むことで、学生と企業との直接的接点をつくることを目的に実施

##### (3) 焚火トーク「学生×経営者」

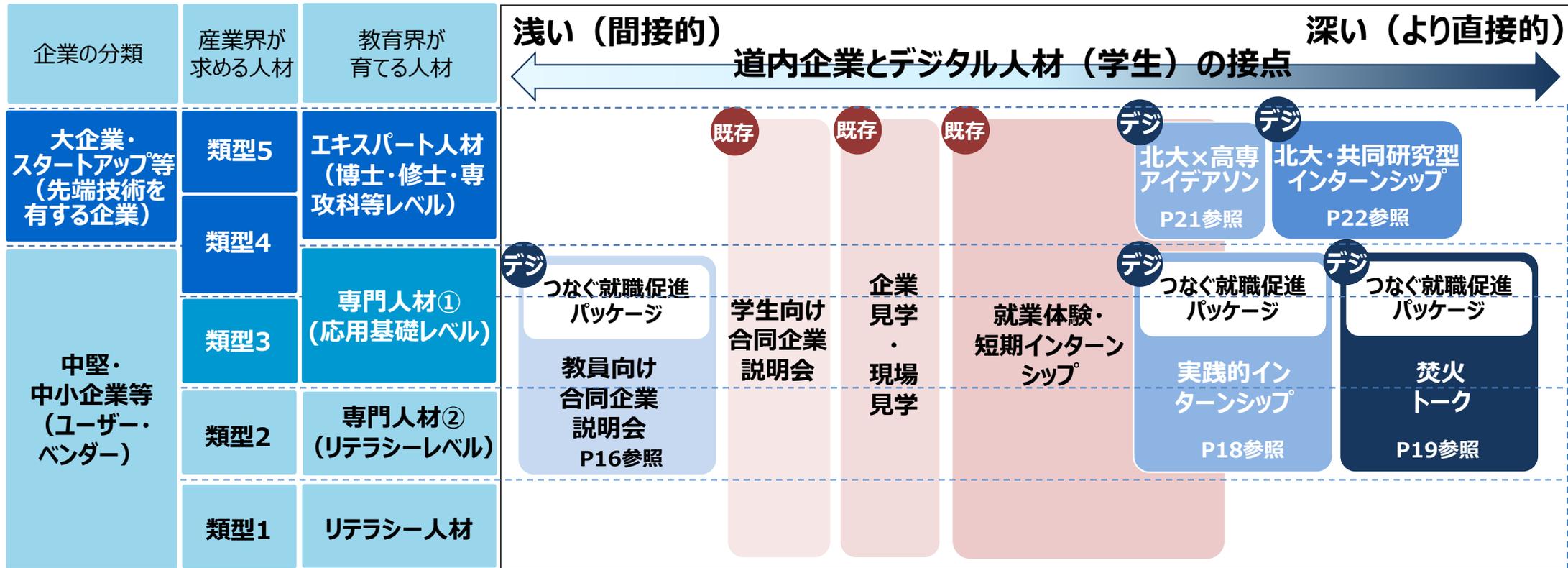
- 道内企業の経営層と学生が、焚き火を囲んで本音で話せる環境を作り、学生が「経営者の想い」を感じ、受け取ることで、学生と企業がより深くつながることを目的に実施

企業と学生の関係性より深く  
連続的に参加する仕組づくり



# <資料3-1> 「ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージ」の狙い

- これまで、道内の企業、経済団体、大学・高専等は連携して合同企業説明会やインターンシップ、企業見学等を実施し、道内企業への就職促進に取り組んできた。
- **本協議会は、既存の就職促進の取組よりも対象・領域を広げて、複数の取組をパッケージ化することで、これまで以上に道内企業と学生（教員）との接点を広げ、道内企業への認知度向上・就職促進を進めていく。**
- なお、**北海道大学が実施するプログラム（「共同研究型インターンシップ」等）**とも連携し、プログラムを充実させる。



企業の種類等については、  
本資料P4参照

既存 は、既存の就職促進の取組を表す

デジ は、本協議会が行う取組（他機関と連携するものを含む）を表す

※上記の図は、便宜上、各種取組の主な領域及び位置づけを示したものであり、実施にあたっては、この領域・位置づけに限らない。

### 3 (1) ① 教員向け合同企業説明会「教員×企業」

- 企業と教員の接点づくり（学生と企業の間接的つながり）は、産業界及び教育界の双方から強いニーズあり。
- 学生が身近に相談でき、アドバイスが受けられる教員の積極的な関わりが重要。
- 学生の就職相談の役割も担う教員や就職担当職員を対象とした道内企業の合同企業説明会を開催（8校・26人参加/18社参加）。

#### ■ 2023年度モデル実施事業 「大学・高専の教員・職員向けの合同企業説明会」について

<p>モデル 実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>開催日時 2024年2月27日（火） 13：00～17：30（オンライン開催）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓参加企業（18社）はスライドや動画を活用して「<b>自社の強み、技術、デジタル化の取組、新卒デジタル人材への期待、待遇など</b>」を説明。</li> <li>✓1企業あたり「企業説明15分＋質疑応答10分：25分。</li> <li>✓タイムテーブルは&lt;資料3-2&gt;参照</li> </ul> </li> <li>◆ 説明会後も互いに連絡を取り合えるようにするため、<b>出席者名簿と連絡先を一覧にして共有</b></li> <li>◆ <b>参加企業を対象</b>に、自社の強み等を鮮明に伝えるため、「<b>学生・教員を惹きつけるプレゼン方法</b>」をテーマにした<b>オンライン研修会を2回実施</b>（2月8日：オンライン研修会、2月15日：オンライン個別相談）</li> </ul>
<p>参加企業数</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>18社</b></li> <li>◆ デジタル人材を採用したい企業※を、協議会参画の経済団体経由で<b>道内各地から募集</b> ※道内に主な事業所を有する企業（業種は問わない）</li> </ul>
<p>参加教職員数</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>8校・26人</b>（人数はログインアカウントをもとに集計）</li> <li>◆ 協議会参画の大学・高専の教員・就職担当職員（就職支援課など）を<b>幅広く募集</b></li> </ul>

## ＜資料3-2＞ 大学・高専の教員・職員向けの合同企業説明会 タイムテーブル

開始時間	所要時間	オンライン・ルーム1			オンライン・ルーム2		
		会社名	所在地	業種	会社名	所在地	業種
13:00	25分	(株) HDC	札幌市	情報通信業	北ガスジープレックス (株)	札幌市	建設業
13:30	25分	(株) プリズム・メディカル	札幌市	情報通信業	萩原建設工業 (株)	帯広市	建設業
14:00	25分	(株) ポータス	釧路市	情報通信業	(株) ニッコー	釧路市	製造業
14:30	25分	(株) 北海道キューブシステム	札幌市	情報通信業	(株) ディーディーエル	札幌市	その他 (受託開発、電子機器開発製造)
15:00	25分	(株) ミクロソフトウェア	札幌市	情報通信業	北海道ガス (株)	札幌市	電気・ガス・熱供給・水道業
15:30	25分	(株) メディア・マジック	札幌市	情報通信業	(株) ロジネットジャパン	札幌市	運輸業、郵便業
16:00	25分	(株) LIC	札幌市	情報通信業	苫小牧埠頭 (株)	苫小牧市	運輸業、郵便業
16:30	25分	(株) 流研	札幌市	情報通信業	トヨタモビリティ釧路 (株)	釧路市	卸売業、小売業
17:00	25分	フュージョン (株)	札幌市	情報通信業	北海道イシダ (株)	札幌市	卸売業、小売業
17:30	終了						

### 3 (1) ② 実践的インターンシップ「学生×仕事」(2024年度実施に向けて検討中)

- 近年、インターンシップが当たり前の活動になる中で、インターンシップのプログラムによっては定員が埋まらないケースもあり、道内企業の安定的な人材確保が困難になっている。
- また、道内企業より首都圏の方がプログラムの目的・内容が明確で学生が何を習得できるかがイメージしやすく、首都圏へ流れる傾向にある。
- プログラムの目的・内容を充実・明確化し、学生が中長期間・有給等にて、道内企業の実際の仕事や仮課題・実課題等に取り組めるようにすることで、学生と道内企業との直接的接点をつくるための検討を行った。

<p>モデル 実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 対象企業    ✓ <b>デジタル人材を採用したい道内企業4社程度</b> (協議会参画の経済団体経由で募集)</li> <li>◆ 対象学生    ✓ <b>デジタル人材として活躍・就職したい学生</b> (協議会参画の大学・高専経由で募集) ✓ <b>学年は問わない</b></li> <li>◆ 実施期間    ✓ <b>実働5日以上～3ヶ月程度</b> (例えば3ヶ月/週3/1日数時間等)</li> <li>◆ 実施形態    ✓ インターンシップ受入企業のオフィス業務に加え、<b>テレワーク等遠方でも参加できる仕組み</b>を検討</li> <li>◆ 報酬設定    ✓ <b>有給もしくは無給</b></li> </ul>
<p>既存の インターン シップとの 違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 一般的なインターンシップでの単位認定の期間にとらわれることなく、<b>実施期間を幅広く設定</b></li> <li>◆ 就職活動中の学部3～4年等に限らず、<b>全学年に対象を広げ実施</b></li> <li>◆ インターンシッププログラムを<b>レベル別に分類し、レベルに応じて学生を募集</b></li> <li>◆ 学生及び受入企業のサポートを行う「<b>インターンシップコーディネーター</b>」の配置 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生募集前に<b>インターンシッププログラムの目的・内容の明確化</b>に向けて企業をサポート</li> <li>✓ 企業と学生の間立ち、双方から要望等をヒアリングし、受入準備・マッチング</li> <li>✓ インターンシップ期間中の<b>学生及び企業</b>のサポートの実施</li> </ul> </li> </ul>

### 3 (1) ③ 焚火トーク「学生×経営者」

- 就職活動時に知りたい情報は「会社の雰囲気」(最多70.6%)や「経営者の考え方や人柄」(65.8%)、内定先の決め手は「社風や雰囲気」(最多28.5%)※。また、焚火は「心理的安全性」が高く、本気の対話が可能。
- 道内企業と学生との接点が少なく、経営者(層)との接点はさらに少ない。
- 道内企業の経営者と学生が、**焚火を囲んで本音で話せる環境を作り**、学生が「経営者の想い」を感じ、受け取ることで、**学生と企業がより深くつながる**ことを目的に実施。

<p>モデル 実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経営者(層) 1人、学生数名程度のグループを作り、焚火を囲み、経営者と本音トーク</li> <li>✓ グループを複数設定し、一定時間経過したら、参加者をシャッフルし、繰り返す</li> </ul> </li> <li>◆ <b>【モデル開催（釧路）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>2024年1月27日（土）に釧路工業高等専門学校を対象に釧路市内でモデル開催</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共催：釧路商工会議所青年部、釧路市、釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz</li> <li>● 協力：釧路高専地域協力会</li> </ul> </li> <li>✓ 実施結果については、&lt;資料3-4&gt; 参照</li> </ul> </li> <li>◆ <b>【今後の展開】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2024年度、モデル開催をベースに<b>商工会議所等と連携し開催できるか検討(札幌・函館・釧路・北見など)</b></li> <li>✓ <b>学校単位開催モデル（教員の同席ありなど）</b>での焚火トークも検討</li> </ul> </li> </ul>
<p>対象企業</p>	<p>協議会参画の経済団体経由で、デジタル人材を採用したい企業を募集</p>
<p>対象者</p>	<p>協議会参画の大学・高専の教員等を通して、今後、<b>デジタル人材として活躍・就職したい学生を募集</b></p>

(※) 株式会社プレシャスパートナーズ『就職活動に関する調査』(2023) <https://www.p-partners.co.jp/information/2023/pp230606/>

## <資料 3-4> 「焚火トーク」釧路モデルの実施結果

- 釧路市内の若手経営者3名、釧路工業高等専門学校(以下「高専」)の学生10名が参加
- 学生へのアンケートの結果、「焚火トーク」に参加して、**釧路市内での就職や起業への関心が「非常に高まった」「高まった」と回答した学生は10名中9名**
- 参加した経営者からは、「これまで釧路高専生との接点がなかったが、今回、接点を作ることができ良かった」「また参加したい」「次は、学校に出向き、学生がどんな勉強をしているかも逆に教えてもらいたい」との声があった

### (1) 参加者

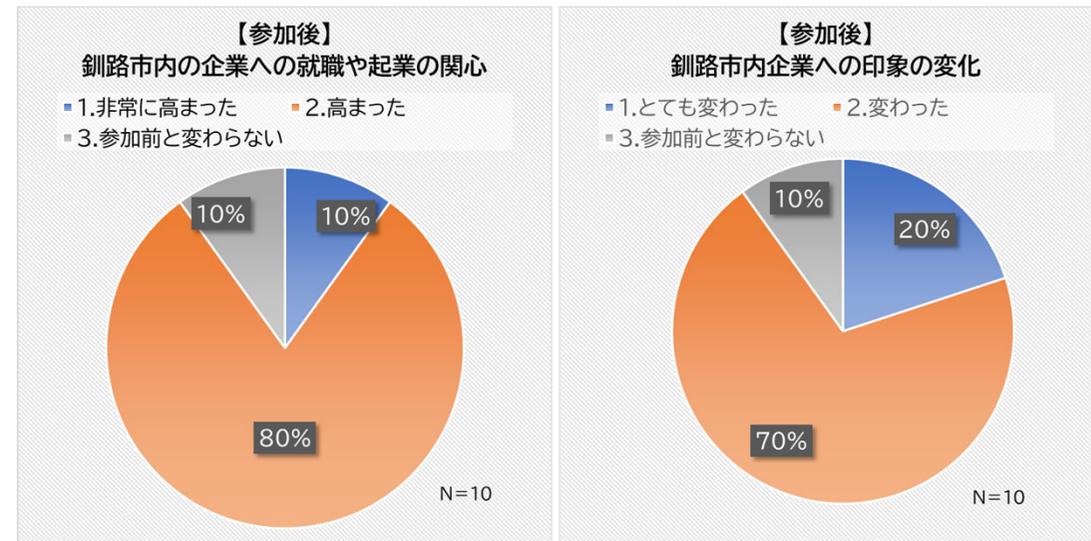
#### ① 経営者：3名

末松建設(株) 常務取締役 末松大一氏  
 (株)ポータス 代表取締役社長 栗林周次氏  
 (株)マルカツ吉田新聞店 代表取締役 吉田勝幸氏

#### ② 釧路高専生：10名

学年別	人数	分野別	人数
5年生	3	情報工学分野	3
4年生	2	機械工学分野	2
3年生	3	電気工学分野	1
2年生	2	電子工学分野	1
		建築学分野	3
計	10	計	10

### (2) 学生へのアンケート結果



#### 【上左グラフ：「高まった」との回答理由】

- イベントに参加する前は釧路市の企業についてあまり関心がなく印象もなかったが、何気なく使用していたものや施設などが企業とのつながりがあることを知り、**釧路市の企業を意識するようになった。**

#### 【上右グラフ：「変わった」との回答理由】

- 今回のイベントで、**自分の見ていた以外の釧路を見ることが出来、そこで活躍される方々の考えに触れることが出来た**ため。

### 3 (1) 北海道大学実施のプログラムとの連携（北海道大学×高専アイデアソン）

- 道内デジタル人材育成の強化と道内企業への就職促進を進めることを目的に、企業から出される課題に対し、道内4高専（本科生・専攻科生）が学んだ知識・技術等を生かして、解決策を考える「アイデアソン」を実施。また、メンター役として北海道大学の大学生が参加する。
- 本取組は、道内高専生の北海道大学への進学促進という側面もあるが、早い段階での高専生と道内企業との接点づくり、及びメンター役の大学生や教員と道内企業の接点づくりが可能。

主催：北海道大学MDSC 共催：本協議会、北海道大学大学院情報科学研究院 運営・協力：メディア総研(株)

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 2024年3月15日（金）・16日（土）開催（北海道大学オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」1F） <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ グループをつくり、学生による課題解決ワーク実施、発表</li> <li>✓ 15日：企業側から課題の説明、学生グループによるワークショップ（アイデアソン）及び懇親会</li> <li>✓ 16日：学生グループによるワークショップ（アイデアソン）、グループ発表・講評</li> <li>✓ メンター役として北海道大学の学生が参加</li> </ul> </li> </ul>
対象企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 協議会参画の経済団体経由で情報展開し、以下の道内企業9社が参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>● （株）釧路火力発電所（釧路市）</li> <li>● （株）クロス・コミュニケーション（札幌市）</li> <li>● （株）恵和ビジネス（札幌市）</li> <li>● （株）篠田興業（標津町）</li> <li>● トヨタ自動車北海道（株）（苫小牧市）</li> <li>● （株）日本製鋼所（室蘭市）</li> <li>● （株）ポータス（釧路市）</li> <li>● （株）メディア・マジック（札幌市）</li> <li>● （株）ロジネットジャパン（札幌市） ※企業名五十音順</li> </ul> </li> </ul>
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道内4高専（本科生・専攻科生）・北海道大学生40名程度募集</li> </ul>

### 3 (1) 北海道大学実施のプログラムとの連携（共同研究型インターンシップ）

- 北海道大学（共創教育センター）は、デジタル人材育成に関する教育の充実等を目的に、北海道大学・室蘭工業大学の大学院生（博士課程）を道内企業へ一定期間派遣し、大学院生が企業の課題解決等支援を通じて実地経験を積む「共同研究型インターンシップ」を、2024年度から実施。
- 実施に向け、大学院生の派遣を希望する複数の道内企業の中から派遣先企業を選定中。企業の選定・決定後、対象大学院生の募集（定員：数十人規模を予定）を開始。その後、大学院生に対してデジタル・DX関連教育を行い、2024年5月以降に大学院生の企業派遣を開始予定（2024年度：10社程度）。

#### 課題解決DXコンソーシアム

【中核機関：北海道大学（共創教育センター）】

コンソーシアムを運営する委員会が  
2023年12月に発足

- 道内経済団体、行政機関等で構成（コンソーシアム構成機関はすべて、北海道デジタル人材育成推進協議会に参画）
- 複数の民間企業（道内IT企業含む）が「DXアドバイザー」として、大学院生へデジタル・DX関連教育等を実施



- 本コンソーシアムにおいて、共同研究型インターンシップへの「参加企業」及び「参加大学院生（北海道大学・室蘭工業大学）」を募集
- 「共同研究型インターンシップ」開始までのステップは以下のとおり

1. 参加企業からの課題等の提示
  2. DXアドバイザー（参加大学院生のフォロー、課題解決等へのアドバイス）の決定
  3. 参加企業と参加大学院生のマッチング
  4. DXアドバイザーが参加大学院生へデジタル・DX教育を実施
  5. 参加大学院生が企業の課題解決等支援に対応（随時、DXアドバイザーと連携）
- ※大学院生の企業への派遣にかかる旅費・滞在費等は大学側が負担

#### 【インターンシップのタイプ】

##### (1) 集中派遣

2週間～2ヶ月程度、集中的に企業へ入社

##### (2) 定期的派遣

1週間に1～2日程度の頻度で数ヶ月～半年程度の期間、定期的に出社  
など、複数のタイプを用意

## 4 参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用

- 協議会参画機関のデジタル人材育成プログラム・セミナーを紹介するメルマガを配信し、相互活用を活性化
- 協議会参画機関が実施するデジタル人材の育成や就職促進などの取組を本協議会で集約し、情報共有を図るとともに、本協議会と連携して取組を実施

### ① メルマガの配信

- ◆ 2023年6月23日から配信スタート
- ◆ 配信登録者数：65名（3月11日現在）
- ◆ 配信日時：不定期
- ◆ 配信数：19通（3月11日現在）
- ◆ 配信内容：協議会参画機関が実施する、デジタル人材育成に関連するプログラム・セミナー情報 など

### ② 協議会参画機関との連携

- ◆ 北海道大学主催のプログラム「北海道大学×高専アイデアソン」及び「共同研究型インターンシップ」を共催実施
- ◆ 北海道大学において採択された「令和4年度 成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」採択プログラムの2事業について、左記メルマガを通して情報発信を実施 など

# 2024年度事業方針案

# 2024年度事業方針案

- 2024年度は、2023年度に実施した各取組を継続するとともに、道内企業への就職促進事業として、新たに、道内へのU・I・Jターン希望者と道内企業とのマッチング等の実施を検討。

## デジタル人材育成機能の強化

- (1)「既存PBLケースバンク」の活用、大学・高専PBLニーズと企業課題等のマッチングの継続実施
- (2)大学・高専の実務家教員派遣希望に対する企業マッチングの継続実施
- (3)リカレント教育・既存人材育成に係る北海道大学等が実施するプログラムとの連携

## 道内企業への就職促進

- (1)「教員×企業」・「学生×仕事」・「学生×経営者」ほっかいどうデジタル人材【つなぐ】就職促進パッケージの実施
  - ①教員向け合同企業説明会「教員×企業」
  - ②実践的インターンシップ「学生×仕事」
  - ③焚火トーク「学生×経営者」
- (2)北海道大学等が実施するプログラムとの連携
- (3)北海道へのU・I・Jターン希望者に対する、デジタル人材の確保を目指す道内企業の魅力発信とマッチングの実施を検討

## 参画機関のネットワーク強化・提供プログラムの相互活用

- (1)協議会参画機関が実施する、デジタル人材育成に関連するプログラム・セミナー情報等を発信するメルマガの継続配信
- (2)協議会参画機関が提供するプログラムとの連携

## 来年度のスケジュール（予定）

WG会議：2024年5月、11月　本会議：2025年3月